

同窓会が“復活”しました



恩師（最前列）とともに記念撮影。年代別に3回に分けて撮影した

桜友会報

第1号
2007.6.1

昭和女子大学附属昭和小学校同窓会
「桜友会」

〒154-8533
東京都世田谷区太子堂1丁目7番57号

卒業生の親和の場に

昭和女子大学附属昭和小学校（初等部）の同窓会「桜友会」が再建され、昨年秋に新たにスタートを切った。

初等部は昭和28年に56人の1年生を迎えて産声をあげた。その1回生が昭和34年3月に卒業して以来、今年（平成19年）の49回生まで巣立つていつた卒業生は4000人に上る。

1学年2～3組の少人数クラス。しかも私学ならではのユニークな学校行事の数々をともに過ごした6年間の思い出は抱えきれないほど。卒業生の初等部に対する愛着は、一般の小学校よりもはるかに強いはずだ。

個々にクラス会や同期会を開くことは多いかもしれない。しかし、学年を超えて一同に集まり、相互に緊密な連絡を取り卒業後の人生成を豊かにするとともに、母校に何らかの恩返しができる機会はなかった。

かつて4回ほど「桜友会」が開かれたことがあったが、同窓会としてはつきりした組織づくりがされないままに中断されていた。初等部創設からすでに半世紀以上を過ぎて、昭和21年～22年生まれの第1回生が還暦を迎えることになつたことから、卒業生、そして学園の側からも同窓会を開きたいという声が高まつた。

2006年春、卒業生の有志が集まり同窓会を再建し、秋には第1回総会と懇親会を開くことをを目指して準備を進めた。

少人数での数回の準備会合を経て、7月29日に1回生から初等部を卒業したばかりの48回生まで、可能な限り各年代から出席可能な卒業生が集まり「同窓会再開準備会」を開き、正式に同窓会実行委員会を結成した。この席で、第1回総会・懇親会を昭和祭にあわせて11月11日に開くことを正式に決め、実行委員長に中田彰生さん（1回生）、副委員長に粕谷佐知子さん（4回生）、吉田昌史さん（6回生）らの役員を選んだ。

限られた時間での準備でどれだけの参加者があるかと実行委員会では心配していたが、総会の日は雨模様だったにもかかわらず183人の卒業生が出席した。

総会は13回生の小蘭江園香（旧姓・伊藤）さんが総合司会を務めた。校歌の齊唱で始まり、江口雄輔校長の挨拶、ついで中田実行委員長がこの総会を開くまでの経過を報告し、「以前存在した桜友会は卒業生がまだ非力だったこともあつて、2代目校長の人見楠郎先生らの力に頼っていたために、先生が亡くなつた後は実体がなくなつてしまつていた。これからは卒業生の力を集めて同窓会を発展させよう」と協力を求めた。

続いて3回生の太田鈴子（旧姓・相島）さんが議長として議事に移り、まず実行委員会の提案どおりに会則案を承認した。ついで、役員の人事に移り、正副会長には実行委員会の正副委員長がそのまま就任したほか、7人の本部役員と監事を選出、また人見楷子理事長と江口校長に顧問就任をお願いすることを拍手で承認した。

可愛らしい活火山

最近の初等部報告

江口雄輔校長 || 寄稿

「芸術は爆発だ」と喝破した岡本太郎になれば、「初等部は活火山だ」といふことになるかと思ひます。その噴火のエネルギーとなるマグマは、子供たちのすばしつこい動きであり、目の輝きであり、歓声であり、ときには震わせる怒りや熱い涙であり、顔中の大爆笑です。さらに、「なぜなの?」「どうなつてゐるの?」というあくなき好奇心や探究心、

鉄棒・サッカー・水泳・将棋・吹奏楽・ダンスなど、さまざまのことに対する意欲的なチャレンジ精神や向上心も、このマグマを熱くするものです。

創立以来54年を経過した初等部ですが、元気いっぱい伸びる芽をもつた子供たちが、主役となつて学校を作つてゐるという点は一貫しています。時代の変化の大きさと速さに比べれば、子供の本質的なありようは変わっていないといつよいでしよう。教師は子供たちを教えつつ、子供たちに教えられ励まされるのも、変わらぬ真実です。

むしろ変わったのは保護者のほうか、というのが実感です。一般的に見て、核家族化や少子化、両親ともに仕事をもつ、

というような事実が子育てにも大きく影響しています。加えて、国の教育方針が一定しないし、一部の公立学校の荒廃がいわれる、そんなわけで子育てに不安をもつ親が多く、その分、学校への期待や要求も過大になります。幸いな

ことに初等部の保護者には、このような傾向は少ないのでですが、それでも昔から見れば神經過敏な例も無いわけではありません。人見楠郎先生がよくおっしゃつていた、子供とともに親も成長する、ということを私からお話することもあります。

初等部の教育自体となれば、その基本方針をゆるがせることなく、今日に至っています。「世の光となろう」という建学の精神、三つの目標を掲げ、からだはもちろん、こころもあたまも逞しく伸びやかで自立心をもつた子供を育てています。第1回卒業生はわずか62人でしたが、30年前に現在の校舎が竣工して、全学年3クラス全校児童650人あまりとなりました。1学年の人数が増え、それなり

に改めた部分もあります。平成15年に創立50周年記念式典をおこない、タイムカプセルも作つて、初等部の半世紀に区切りをつけましたので、翌年から100周年に向けた新たな試みをはじめました。3学期制を2学期制にし、2学年にまたがつて総合学習を1年間の完結型とし、一部で始めていた英語の学習（読売教育賞受賞）を1年生から全学年で行うことになりました。国際交流という点では、上級生の希望者が参加するボストン・ツアーがあり、また、キャンパスにブリティッシュ・スクールが共存するようになり、今後の交流を模索しているところです。

昨年の3月には念願の新体育館とプールが完成しました。さつそく子供たちが跳ねまわっています。四季絶えることなく花をつける色々な樹木を周囲に植え、ビオトープまで造つたので、将来は虫が飛びかうかもしれません。

いまの初等部の一端をお知らせしますが、子供たちの生き生きとした様子はやむことありません。限りなく優しいかと思うと平気で残酷な振る舞い、先生方の顔もほころぶほどかわいいかと思えば次の瞬間の小憎らしさ、たわいなく幼いかと思うと驚くほどの大人びた表情。こんな子供たちを支えて、熱いマグマを秘めた初等部であり、活火山の初等部であり続けたいと思います。



「たくましく伸びやかに」——林間学校
は1回生の時代から続く大切な行事



平成18年春に完成したプールでは児童たちが楽しそうに水と親しむ

の配慮は必要となりましたが、海浜学校、林間学校、総合学習、給食、目の体操、マラソンなど、しっかりと後輩たちに受け継がれています。

もちろん、時代の動きをうけて、制度的に改めた部分もあります。平成15年に

ご来賓の 先生方からの挨拶

■前原金一副理事長

第1回桜友会おめでとうございます。
理事長は、今成田から到着され、着替えていますので、私が先にご挨拶をします。

実は、私も昭和小学校の卒業生です。

と言いましても、岐阜県の昭和小学校で

住友生命総合研究所の社長をしていまし

た時に、理事長に言われ、3年少し前、川平先生（前副理事長）からも代わりにとのお話があり、他で教育に携わつていましたのでお引き受けしました。

今、副理事長になつておりますのは、住友生命総合研究所の社長をしていまし

た時に、理事長に言われ、3年少し前、川平先生（前副理事長）からも代わりにとのお話があり、他で教育に携わつていましたのでお引き受けしました。

もう一つは、ブリティッシュ・スクールを誘致したこと。小学校3年から6年生が8月から通い、やがて中学、高校もできますので国際的キャンパスになります。

では理事長が到着しましたので。桜友会のご発展と皆さまのご健勝をお祈りします。

■人見楷子理事長

久しぶりの方、しょっちゅう会つてい
る方様々のようです。

私は、理事長を受けて6年たちました。交通機関が飛行機なので、なかなか思うようにいかず、今、冬時間になつて到着が1時間遅いのですが、追い風なので間に合うかと思いましたが、かなり揺れてコースを南に下げ、モンゴル、北京、ソウル、そして京都の上を通つて来ました。搖れがひどく今日で終わりかなと。食事のコーヒーが半分こぼれて、不気味で落ち着かない状態でした。いつもこのようう遠くから通っています。

私は初等部が懐かしい。できた頃は、質素でこぢんまり。手作りの入学案内を、父と一緒にのりを持って電信柱に張りました。

初等部を作る時、父は非常に熱を入れていて、私が入学した国立の小学校を参考にするため私の後をついて来て、運動会、学芸会、遠足などの写真をとりました。先日担任だった先生にお詫びをしたところです。

父は、昭和の創立理念で初等部を作つたのです。初等部の生徒は目に入れても痛くないほどかわいく、初等部の生徒との写真は、嬉しそうなものが多かったです。年を取ると、同窓ということは大切です。母校の施設、望秀海浜学寮、東明学林、会津キャンプ村などを利用してください。学校を思い出してください。学校はお手伝いしますし、学校も卒業生に頼ることもあります。寄付は、後輩のため、昭和学園を卒業してよかつたと思うことに使いたいと思います。ご協力をお願いします。

今日はお目にかかる嬉しく思いま
す。

うようにいかず、今、冬時間になつて到着が1時間遅いのですが、追い風なので間に合うかと思いましたが、かなり揺れてコースを南に下げ、モンゴル、北京、ソウル、そして京都の上を通つて来ました。搖れがひどく今日で終わりかなと。食事のコーヒーが半分こぼれて、不気味で落ち着かない状態でした。いつもこのようう遠くから通っています。

私は、理事長を受けて6年たちました。交通機関が飛行機なので、なかなか思うようにいかず、今、冬時間になつて到着が1時間遅いのですが、追い風なので間に合うかと思いましたが、かなり揺れてコースを南に下げ、モンゴル、北京、ソウル、そして京都の上を通つて来ました。搖れがひどく今日で終わりかなと。食事のコーヒーが半分こぼれて、不気味で落ち着かない状態でした。いつもこのようう遠くから通っています。

■昭和小学校校長 江口雄輔先生

第1回卒業生6年2組の担任だった間藤先生が新潟からはるばるかけつけてくださいました。ありがとうございます。

第1回6年2組の歌があつたと、昭和34年刊行の6年2組の文集「蜂の巣立ち」で間藤先生が紹介されています。第1回生ばかりではなく、こうやつて集まる

当時が蘇るのではないでしようか。私は

第1回生の1年先輩で、昭和小学校は存

在しない時代だったので公立小学校です

が、担任の先生のお名前は全部覚えてい

て、先生にまつわる思い出があります。

小学校の成績表にある担任の先生の観察記録を読みますと、今の私がすでに小学校時代にあつたことがよくわかります。小学校時代は人の根ができる時期。

皆さんは気がついでみると初等部時代に学んだことなんだ、身につけたことなん

だということがきっとあるはずです。

人見楠郎先生がよくおっしゃっていたことですが、母校は「母なる学校」であると同時に「母なる港」である。そういう意味での「ぼこう」であると私も思います。そういうふた思いを、今日はかつての同級生や先輩、後輩と語らう中でじっくりかみしめていただきたいと思います。

乾杯のごあいさつ



乾杯の音頭をとる間藤先生（左端）。右へ
人見理事長、江口校長、前原副理事長

を作つて、1回生が高校に入学するまで続きました。今は、心理学を大学院で教えています。

私にとって、人見先生との触れ合いは人生を変えました。内田先生、河野先生は同志で、先頭が人見楠郎先生。

4年間、横綱の胸を借りる幕下力士のように人見先生にぶつかっていましたが、人見先生には退職後もお目にかかるわかつてきました。

卒業生とも年齢差が感じられなくなり、今では、同級生のような気分です。思い出はつきないので、乾杯にします。

なごやかな雰囲気で懇親会

総会に引き続き懇親会が同じ学園本部大会議室で開かれた。

参加したのは還暦を迎える第1回生から春に中学生になつたばかりの48回生までの183人、卒業生がお世話になった先生方や学園関係者など来賓25人。前原金一副理事長、江口雄輔昭和小学校校長の挨拶をいただいた。さらに成田空港から駆けつけた人見楷子理事長からも挨拶をいただいた。

第1回生の2組担任だった間藤佑先生



の音頭で乾杯、出席いただいた先生方を紹介した後懇談に移り、久しぶりに顔を合わせた同期生同士が昔話に花を咲かせたり、年配の卒業生が若い世代から最近の学園生活について話を聞くなど、なごやかな雰囲気で会が進んだ。

なつかしい写真

○…懇親会場には全クラスの卒業記念写真とさまざまな行事でのスナップ写真



2003年11月23日に初等部の創立50周年記念式典が開かれ、私も出席させていただき懐かしい先生方や一緒に初等部で過ごした同級生、下級生たちと楽しい時間を過ごす機会がありました。

それを機に卒業生から、初等部の同窓会がないのはさびしいという声がでてきました。きょうお集まりの方の中には、以前「桜友会」という同窓会が開かれて出席したことがあるという方がいらっしゃるかもしれません。しかし、これにはまだ私たち卒業生が十分に力を蓄えて一つになつて同窓会を運営することができなかつたときに、人見楠郎先生や巳波瑠美先生らのお力で学校が主体となつて声

昭和祭に合わせて再建第1回の同窓会総会を開くことを目標に、新しい組織をスタートさせることとなりました。

7月29日には、初等部を卒業したばかりの中学1年生から我々60歳まで40人が集まつて再開準備会を開き、正式に桜友会再開大会実行委員会をスタートさせました。一番年長ということで私が実行委員長を任せられることになり、副委員長を務めていた4回生の柏谷佐知子さん、6回生の吉田昌史さんらを中心いての総会と準備を進めてきました。

本日の案内状、そして懇親会場の看板にあるように、「第1回」と銘打っていますが、これは先に述べたように過去に

力を合わせて組織作りを

会長 中田 彰生

「桜友会」が開かれたことはありますか、卒業生自身の手による同窓会活動はこれからスタートさせるのだという実行委員会の決意の表れです。

これからご審議いただく会則案にありますように、卒業生の親和・向上・連絡をはかり、あわせて母校の発展に寄与するという目的を末永く堅実に果たせる組織に育つよう皆様のご協力を願いいたします。

最後に私たちのよき相談相手となつていただいた江口校長、そしてまだ手足を持たない組織の実務面をサポートしてくれた学園本部企画広報部の柳秀子さんはじめ本部・初等部の教職員の皆様に厚くお礼申し上げます。

懇親会では久しぶりの再会に話がはずんだ

展示された卒業写真で12歳の自分たちの姿
を確かめ合う

をかけていただいたものでした。巳波先生、人見先生が相次いで亡くなられると、同窓会がまつたく姿を消してしまつていわけです。

50周年記念式典を機に、卒業生が集まり母校との絆を保ち続けるためにもしっかりした同窓会の組織が必要だとは感じていましたが、なかなかきっかけがつかめませんでした。私たち第1回生は今年還暦を迎えました。そんなとき、同窓会を再建するなら学校としても全面的に協力したいという江口校長や学園本部の申し出を受けました。そこで今年4月に50周年記念式典の出席者名簿を頼りに同窓会づくりに協力いただける方を募りました。数人が集まつてきょう11月11日に

→ 真が展示された。卒業写真は1回生から47回生までのクラスごとのものと昨年春卒業全学年合同の計117枚。写真的前では12歳当時の自分の姿を確認する人、また写真に写っている級友の消息を確認しあう姿も見られた。

ガツツポーズを見せたりパンザイをしたり、喜びを表していた。

前では12歳当時の自分の姿を確認する人、また写真に写っている級友の消息を確認しあう姿も見られた。

出席された恩師

ガツツポーズを見せたりパンザイをしたり、喜びを表していた。

豪華な抽選会

○：懇親会の目玉企画として抽選会が行われた。商品は学園の提供による会津キャンプ村ペア宿泊券10枚。人見理事長が抽選箱から引いた番号札の数字が、チームプレートに書かれた数字と一致すれば当選。司会者のアナウンスとともに、胸元の数字を確認。当選した人たちは、



(50音順・敬称略)

有賀三奈子（内田）、及川芳子（直）、梶井恵子（緑川）、後藤里子（佐佐木）、草野京子（渡辺）、田崎寛文、塙田義明、野田淳子（河野）、増田敬、間藤佑、南佑子、村上淳子（桐原）、渡辺裕子（金沢）、現職＝大坪良穂、菊地眷太郎、松下益子

上淳子先生と一緒に北海道を旅行しました。その時の感想を先生に寄稿していただきました。

村上淳子先生より

最近、初等部時代の教え子に誘われて雪の北海道旅行に参りました。

かつては可愛い子供たちも、今は50代半ば現役バリバリの人たちです。

私は」というと、大学を卒業して教師となつて初めて受け持つたのがこの人たち

入学はややの1年生、初等部がその年ようやく1年生から6年生まで揃つた年でしたから、はるか昔のことと計算すれば孫が何人もいるお祖母さんであることは当然のことでしょう。

このように元気な人たちと一緒に行動できるのだろうか、迷惑をかけないだろうかなど迷っていたのですが、是非にとの言葉に甘えて連れて行つてもらうことにしたわけです。

卒業以来この学年はまとめ役がいて良くまとまり、途中で転校して行つた人まで引き止めて名簿を作り、当時の担任のみならず専科の先生までお呼びして何度も同級会をしてくれていますが、数日をともに過ごして温泉に入り、まさに裸の付き合いをするということは初めてでした。

創立者の願いを

さてこの数日間、私はこの人たちの仲間であるかのような気持ちで実に楽しく有意義な時を過ごしながら、みんなが初等部で共に学んだことに誇りを持ち、友人を大切に思つてることを知りました。

朝礼の時、旧校舎前の校庭で小さな足踏み式オルガンの伴奏でよく歌つた「光の子供」は、その当時の人たちは覚えていると思いますが、この世の光になれと思われる創立者の願いであつたと思われます。昭和初等部卒業のどの人も、時代は変わつても創立者の願いを受け継いで、一人一人それぞれの場で精一杯に大きくても小さくても良いから、光りとなつて生きていつて欲しいと、しみじみ思つた北海道旅行でありました。

(昭和33年～38年初等部在職)



懇親会に懐かしい先生方も多数参加していく

ださった

人目が村上先生

北海道旅行中、余市で記念撮影。右から二

昭和女子大学附属昭和小学校同窓会

桜友会 会則

第4章 役員及び職員

第7条 (役員)

本会に次の役員を置く。

に同窓会本部の活動に参加する。
第10条 (役員の任期)

役員の任期は、1期を3年間とし（学年幹事を除く）、
重任を妨げない。ただし、連続3期までとする。

2 欠員が生じた場合の補欠者の任期は、前任者の残
任期間とする。

第1章 総則

第1条 (名称)

本会は、昭和女子大学附属昭和小学校同窓会「桜友会」

と称する。

第2条 (事務局)

本会は、事務局を東京都世田谷区太子堂1丁目7番57号 昭和女子大学附属昭和小学校内に置く。

第2章 目的及び活動

第3条 (目的)

本会は、建学の精神に基づき、昭和女子大学附属昭和小学校卒業生の親和・向上・連絡を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的とする。ただし、卒業生の範囲には第5条第1項二号を含むものとする。

第4条 (活動)

本会は、前条の目的達成のため、次の活動を行う。

- 1、会報の発行及び会員名簿の整備。
- 2、母校に対する後援。
- 3、会員の生涯学習や親睦に関する活動。
- 4、その他、この会の目的を達成するために適当と認められる活動。

第8条 (役員の選出)

役員の選出は次の通りとする。

- 1、会長は本部役員会が会員の中から選出し、総会で承認を受ける。
- 2、副会長は、会長が会員の中から選任し、総会が選出し総会の承認を受ける。
- 3、委員は学外者と学内在職者で構成、本部役員会が承認を受ける。
- 4、監事は、本部役員会において選出し、総会の承認を受ける。
- 5、学年幹事は、会員の中から互選し会長が委嘱する。

第3章 会員

第5条 (会員)

本会の会員は、次の通りとする。

- 1、母校を卒業した者。
- 2、母校にかつて在籍した者で、本部役員会で推薦し会長が承認した者。
- 3、学年幹事の交代は後任を選出し同窓会本部に連絡をする。
- 4、本部役員に際しそれぞれ承諾書、辞任届を会長に提出する。
- 5、学年幹事の交代は後任を選出し同窓会本部に連絡をする。

第4章 役員の職務

第9条 (役員の職務)

会長は本会を代表し、会務を統理する。

- 1、副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- 2、監事は、会務を評議し掌理する。
- 3、委員は、会員の定めるところに従い会費を納入する。ただし、納入する会費の種類・金額及び納入方法は別に細則に定める。

第10条 (本部役員会)

本部役員会は、会長、副会長、委員で構成する。顧問

- 1、職員の任免に関する事項。
- 2、本部役員会の議決は出席者の過半数をもって成立する。
- 3、本部役員会は、会長、副会長、委員で構成する。顧問は本部役員会に出席し助言を与えることが出来る。本部役員会は総会承認事項のほか、次の事項について議決する。
- 4、監事は、本会の経理を監査する。
- 5、学年幹事は、当該年度生間及び本会との連絡並びに細則に定める。

する。賛否同数の場合は会長が決定する。

第16条 (幹事会)

幹事会は、本会の会員から互選された学年幹事をもつて組織し、本会の活動について協力する。

2 幹事会は、毎年1回以上開催し、会長がこれを招集する

第6章 会計

第17条 (会計)

本会の経費は、会員の会費及び寄付金その他による。

2 会計規則は別に定める。

第18条 (予算・決算)

本会の予算・決算は、本部役員会で審議の上、総会で承認を得る。

第19条 (会計年度)

本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第7章 個人情報保護法

第20条 (個人情報保護法)

個人情報保護法の取り扱いについては別に定める。

第8章 会則の改定

第21条 (会則の改定)

会則の改定は、本部役員会で審議の上、総会出席者の承認を得る。

第2章 収入

第7条 本会の会計は、入会金、会費及び寄付金・その他をもつて収入とする。

第8条 入会金は8,000円とする。

会費は年額2,000円とする。

桜友会会計規程

この会則は、平成18年11月11日に制定し、施行する

第1章 総則

第1条 この規程は昭和女子大学附属昭和小学校同窓会・桜友会の運営に伴う資金の出納、その他

諸経費の取り扱いに関する必要な事項を定め、

本会の活動が円滑にすすむようにすることを目的とする。本会の会計事務はこの規程の定めるところにより、正確・効率的に処理するものとする。

第3章 支出

第12条 本会の活動に伴う経費の拠出は、予算に計上し総会において承認を得た活動費についてのみ支出を決定することが出来る。但し必要な

経費の拠出で緊急性が認められる事項については、会長は本部役員会に諮り過半数の同意を得て補正予算を編成することが出来る。

第13条 本会の支出については、出納担当者が内容を確認、会長の決済をもつて支払いを決定するものとする。

第14条 支出が完了したものに關しては、第3条に掲げる関係書類を整理・保管しなければならない。

第15条 本会の活動に伴う経費の拠出は、予算に計上し総会において承認を得た活動費についてのみ支出を決定することが出来る。但し必要な

経費の拠出で緊急性が認められる事項については、会長は本部役員会に諮り過半数の同意を得て補正予算を編成することが出来る。

第16条 本会の活動に伴う経費の拠出は、予算に計上し総会において承認を得た活動費についてのみ支出を決定することが出来る。但し必要な

経費の拠出で緊急性が認められる事項については、会長は本部役員会に諮り過半数の同意を得て補正予算を編成することが出来る。

第17条 本会の活動に伴う経費の拠出は、予算に計上し総会において承認を得た活動費についてのみ支出を決定することが出来る。但し必要な

経費の拠出で緊急性が認められる事項については、会長は本部役員会に諮り過半数の同意を得て補正予算を編成することが出来る。

第18条 本会の活動に伴う経費の拠出は、予算に計上し総会において承認を得た活動費についてのみ支出を決定することが出来る。但し必要な

経費の拠出で緊急性が認められる事項については、会長は本部役員会に諮り過半数の同意を得て補正予算を編成することが出来る。

会費納入のお願い

同窓会の運営経費は、会員の皆様の会費によりまかなうことになります。「桜友会」がしつかりと根をはり、いつまでも卒業生の心のよりどころとして育つていくためには財政的な土壤が必要です。

会費は、事務的な経費のほかに、会則にある会報の発行・会員名簿の整備、会員の親睦を図るために使われます。さらに、将来は母校に対する後援や、会員の生涯学習など会の目的達成のために幅広い活動を行いたいと考えています。今後の会の潤滑な運営と発展のために、会費の納入にご協力ををお願いします。

会費などを定める会計規則についても、設立総会で役員会への一任をいたしました。役員会では、年会費2千円、入会金（卒業時）8千円とする決議しました。入会金は、新たに初等部卒業される方に適用されるもので、すでに卒業されている皆さんにはお支払いいただく必要はありません。

なお、5年分（計1万円）を一括して納入いただくことも可能です。

役員会では電子メールやホームページを活用して印刷・発送経費を節約するなどの効率的な運営を目指していきます。

しかし、発足したばかりでさまざまな体制作りのための経費も必要です。皆様のご協力をお願いします。

会報をお届けした封筒に、郵便振替用紙を同封してありますのでご利用ください。

寄付もお受けいたします

発足したばかりの桜友会は財政的にはほとんどゼロからのスタートです。できるだけ早期にしつかりした財政的な基盤をつくりたいと考えています。

そのために、寄付をお寄せいただければ幸いです。特に1口いくらという設定はいたしません。ご寄付いただける場合は、会費とともにお送りいただくようお願いします。

学年幹事選出のお願い

役員と会員の間の橋渡し役として、各学年一人ないし三人の「学年幹事」の選出をお願いしています。

学年幹事には、同期会やクラス会開催などの情報や卒業生の消息などを役員会にお知らせいただきたり、会員の皆様の要望等をお伝えいただくとともに、同期の皆さんに「桜友会」活動への参加を呼びかけていたただくことを期待しています。また、必要な場合には、運営への助力もお願いすることになります。

まだ、一部の学年でしか学年幹事を決めていただいていません。

各学年ごとに話し合って「学年幹事」を決めて、事務局までご連絡ください。
なお、事務局より会員の一部の方に電話等で「学年幹事」の就任のお願いや、推薦の依頼等があるかもしれませんので、ご了承ください。

さまざまな情報をお寄せください

同期会、クラス会などを開いたらご連絡ください。会の模様のレポートをいたければ、可能な限り会報やホームページで紹介していきます。なお、事前にご連絡いただければ、桜友会ホームページで開催を告知することも可能です。

また、さまざまな分野での同窓生の活躍についても情報をお寄せください。さらに、名簿整備のため、同窓生の消息などについてもお知らせください。

電話 03-3411-5114

（初等部）

03-3411-6597
(企画・広報)



ホームページが開設されました

桜友会活動についてご理解いただき、また迅速な情報を伝えすることをめざしホームページを開設しました。

初等部トップページ (<http://www.es.swu.ac.jp/>) からリンクしています

次回総会・懇談会は11月10日に開催します

第2回総会と懇親会は昨年と同様、昭和祭にあわせて11月10日（土曜日）に学園内で開催する予定です。詳細が決まり次第ご案内いたします。